

提 案 の 概 要

研究の概要についてお願いします。

学習状況調査・アンケートの結果から、今年度は学習意欲の向上をベースとして、やらされる学習からやりたいと思う学習へ、読まされる学習から読みたいと思う学習へ、借り物の言葉での表現から自分の言葉での表現へ転換を図っていきたい。本校がめざす「語る子ども」は、「主体的に文章に向かい、そこから得たものを意欲的に表し伝えようとしている能動的な子ども」で、他者へ向かう子どもの姿と共に、一方で文章に向かう子どもの姿を見出している。「語る子ども」の育成のために、「1 魅力的な教材との出合わせ方を工夫し、目的をはっきりと持たせる」、「2 文章との自問自答の方法を系統的に指導していく」、「3 自分の思いや考えを他者に伝える経験を数多くさせる」の3つの仮説を立てた。

3つの仮説に基づき、説明文ではどのような手だてを取ったかお話してください。

(仮説1より1時間目の工夫・学習材の選択・単元のゴールの意識化について、仮説2よりツリー図・国語アイテムについて、仮説3より学び合い・価値ある他者への表現についての実践を発表)

国語アイテムは、自力読みの観点として、身に付けたい内容を学びのアイテムとして蓄積し、その後の学習に役立てている。

物語文の説明をお願いします。

(仮説1より1時間目の工夫・単元のゴールの意識化・価値ある他者への表現について、仮説2より星座図について、仮説3より学び合いの場作りについての実践を発表)

4年では、物語のカメラを学習する。本校では、語り手をカメラに置き換えて捉えている。5年の教科書に出てくる「物語が自分に強く語りかけてきたこと」を、本校では「作品の心」と呼んでいる。

研究の取り組みの説明について、グループで話し合い質問を出してください。

(ホワイトボードに質問を書いた付箋紙を貼っていき、それについて答えた。)

星座図・ツリー図を本当に作れているのか・子どもの実際の姿はどうかということも説明すると、星座図では60～70%の子が自分でできている。ツリー図は3～4割で研究途中であるが、自分で作ってみようという力がついている。

ツリー図を全学年に生かせないかということが、研究の1つである。ツリー図を作ることが目的でなく、学年でつけたい力をツリー図を通してどのようにつけていくか考えている。ツリー図で、文章の全体を読みとっていくことを経験させることが自力読みの力になる。

星座図は、前の教材で作ったものを元に作っていく。「物語のカメラ」については、カメラが映画を映しているというイメージを子どもたちに持たせて、「今カメラがどこにあるか」と考えさせていく。

日常の言語活動・研究の成果・当日の公開授業についてお願いします。

朝の活動として、月：読書タイム、火：日本語大好きタイム（俳句・慣用句など）、金：表現タイム（短作文など）を計画的に行っている。そこで取り上げた内容や紹介したい子どものノートなどは、廊下に掲示している。群読集会を昨年度から行っている。

17年度までの成果としては、①学習状況調査で顕著な伸び、全ての領域で正答率が上がった。②国語が好き、授業が楽しいと答える子が増えた。③自分で教材に立ち向かう子が増えた。④読書量が増えた。また、教師の研修意欲の向上も挙げられる。

秋の大会では24本の授業公開をし、どの時間にも説明文と物語文の授業をする。朝の活動として表現タイムの公開をする。